



国際交流基金アジアセンター

「響きあうアジア2019」

記者会見 関連資料

2019年1月30日
<https://jfac.jp>

目次

1. 「響きあうアジア2019」について
 - 1-1. 概要
 - 1-2. 公式マーク
 2. 「響きあうアジア2019」実施詳細
 - 2-1. 国内の各イベント
 - 2-2. 海外の各イベント
 - 2-3. 主な参画者のプロフィール
 3. 国際交流基金アジアセンターについて
 - 3-1. 設立背景
 - 3-2. 沿革
 4. 国際交流基金アジアセンター 事業実績データ
 5. 国際交流基金アジアセンター 組織データ
-

1. 「響きあうアジア2019」について

1-1. 概要

国際交流基金アジアセンターが主催する、日本と東南アジアの文化交流事業を幅広く紹介する祭典。

国を超え共に創り上げた舞台芸術や映画から、東南アジア選手による混成サッカーチーム「ASIAN ELEVEN」と日本チームとの国際親善試合、“日本語パートナーズ”のシンポジウムまで、お互いの文化が刺激しあって生まれたイベントで構成される。国際交流基金アジアセンターがこれまで5年にわたり行ってきた相互交流の成果を振り返るとともに、日本と東南アジアとの関係をさらに深めるための起点となることが期待される。なお、「響きあうアジア2019」は、同年に東南アジアでも展開予定。

1-2. 公式マーク

テーマ：「アジアのWA（和・環・輪）」
多様な文化が混じり合い、響きあい、一つの輪になる
力強いエネルギーをイメージ



公式ホームページ

<https://asia2019.jfac.jp>

2. 「響きあうアジア2019」実施詳細

2-1. 国内の各イベント

ジャンル	事業名	日程	会場	概要	当該事業に関連する 国際交流基金アジアセンターのこれまでの事業
舞台 芸術 (音楽)	「響きあうアジア2019 ガラコンサート」	7/1 (月)	東京芸術劇場 5階 コンサートホール	基金が活動を支援してきた、ベトナム・タイ・フィリピン・インドネシア・ミャンマーの8つの楽団からのオーケストラの演奏者が参加する特別編成のオーケストラに、日本人指揮者を迎えた特別コンサート。指揮は、小林研一郎氏	日本のオーケストラで経験を積んだ演奏家をASEAN各国の楽団に派遣し、演奏技術向上のための継続的実技指導を実施。また、ASEAN各国の楽団からマネジメント・スタッフを日本へ招へいし、複数の楽団訪問を通して、オーケストラ・マネジメントの現状と課題に関する意見交換の機会を提供しました。
舞台 芸術	「フィーバー・ルーム」	6/30 (日) ~ 7/3 (水)	東京芸術劇場 2階 プレイハウス	2017年の「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM)」での上演が大好評を博した、国際的に活躍するタイの映画監督アピチャポン・ウィーラセタン初の舞台作品。東京初演	主催事業の一つである「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM)」は、2015年からアジアにフォーカスしたプログラムの展開に取り組んでいます。アジアセンターは、舞台芸術に関わるプロフェッショナルのネットワークを支えてきました。
舞台 芸術	「プラーターナー： 憑依のポートレート」	6/27 (木) ~ 7/7 (日)	東京芸術劇場 地下 シアターイースト	タイ現代文学の最前線を担う小説家、ヘー・マムーンの作品を、岡田利規が舞台化。ある芸術家の半生を、タイの歴史・政治の変遷を投影しながら描く作品。2018年8月にバンコクで世界初演、12月には「ジャボニスム2018」の一環でパリでも上演された作品の日本初公演	2016年11月に始まったヘー・マムーンとの対話と継続的なリサーチの中で、岡田はアジアセンター協力のもと、タイの俳優とのワークショップおよび出演者オーディションを実施。選出されたタイの俳優と、タイと日本のクリエイティブ・メンバーとともに作り上げた舞台です。
舞台 芸術 (ダンス)	「DANCE DANCE ASIA」 (ダンス・ダンス・アジア)	7/12 (金) ~ 7/14 (日)	東京芸術劇場 地下 シアターウエスト	日本と東南アジア各国をストリートダンスでつなぐ、共同制作プロジェクト。多彩な表現力とテクニックを持つアジアの演出・振付家、ダンサー、クリエイターたちが共に創り上げ、パフォーマンスを披露し、ストリートダンスの更なる可能性を提示	2014年にスタートしたDANCE DANCE ASIAは、これまでに東京および東南アジア8か国で公演やワークショップを実施。アジア域内の演出・振付家、ダンサーの交流を促進し、新たな文化の創造を目指すプロジェクトです。
映画	「東南アジア映画の巨匠たち」	7月上旬	有楽町スバル座	国際的に活躍している映画監督たちに焦点を当て、躍進目覚ましい東南アジア映画を特集上映。トークイベントも開催	アジアセンターは2014年からユニジャパン（東京国際映画祭）と連携し、東南アジア映画の特集上映を行うCROSSCUT ASIA部門、アジアの気鋭監督3名がオムニバス映画を共同製作する「アジア三面鏡」を含む、アジア映画交流事業を実施しています。
映画	「サタンジャワ」 立体音響コンサート上映	7/2 (火)	有楽町朝日 ホール	インドネシア映画の巨匠ガリン・ヌグロホが生演奏付で上映するために撮り下ろした現代のサイレント映画にサウンドデザイナー森永泰弘が初コラボ。立体音響による一日限りのライブコンサート上映	東京国際映画祭やアジアフォーカス・福岡国際映画祭と協働し、インドネシア映画を紹介。ポップ・ミュージカル形式が用いられている『めくるめく愛の詩』（2016）や、ガムラン・ミュージカルの大作『オペラ・ジャワ』（2006）といったガリン・ヌグロホ監督作品も上映しています。
スポーツ	サッカー東南アジア選抜チーム 「ASIAN ELEVEN」 国際親善試合 “JapaFunCup”	6/22 (土)	Jヴィレッジ (福島)	日本サッカー協会及びJリーグとの協力で実施してきた、各国への指導者派遣等の集大成として、東南アジア若手選抜チーム（U18男子）を結成し、東日本大震災復興支援も視野に「U18東北選抜」と国際親善試合。人気歌手グループLittle Glee Monsterがテーマソングを提供	アジアセンターは、言語や文化を超えて交流できるサッカーというスポーツを通じた国際交流事業を行っています。ASEAN各国の選手に対してはアジアトップレベルの指導を受ける機会、Jリーグコーチに対しては異文化の下でリーダーシップを学ぶ機会づくりをしています。
社会課題と アート	災害とデザイン (災害と環境問題をテーマ とした展示とワークショップ)	7/1 (月) ~ 7/15 (月・祝)	東京芸術劇場 地下 アトリエイースト	基金主催「HANDs!プロジェクト」参加後にフェローによって製作された、フィルム写真や立体模型等のデザイン性の高い防災啓発アート作品の展示と参加型ワークショップ	HANDs!プロジェクトとは、アジアの若者がクリエイティブな防災教育について学びあう人材育成プロジェクト。2014年の開始から現在までにアジア9か国からのフェローを100名育成し、27の防災教育や被災地支援のプロジェクトが実施され、90,000名以上の人々に防災教育の種を届けています。
日本語 教育	シンポジウム 「日本語で、日本を伝える。ア ジアを学ぶ。」	6/27 (木)	日経ホール	“日本語パートナーズ”派遣事業の成果に関するシンポジウム。互いに学びあうことの醍醐味や“日本語パートナーズ”の経験がその後の人生に与えた影響を共有し、外国人登用時代における“日本語パートナーズ”派遣事業の今後の可能性を探る	“日本語パートナーズ”は、ASEAN諸国を中心とするアジアの中学・高校などへ派遣され、日本語教師や生徒のパートナーとして、日本語の授業のアシスタントを務めたり、日本文化の紹介を行ったりしています。同時に“日本語パートナーズ”自身も現地の言語や文化について学び、SNS等を通じて発信します。アジアセンターは、「生きた日本語」や「日本文化」を伝え、「アジアの架け橋」となる“日本語パートナーズ”を、2020年度までに3,000人以上派遣する予定です。
日本語 教育	展示 「展示で巡る“日本語パート ナーズ”の5年」	7/1 (月) ~ 7/15 (月・祝)	東京芸術劇場 地下 アトリエウエスト	“日本語パートナーズ”の活動を通じたつながる心と広がる共感を、写真等で伝える展示	
日本語 教育	“日本語パートナーズ”と話す会	7月上旬	東京芸術劇場 5階 ギャラリー 1	帰国後の“日本語パートナーズ”と直接話し、実体験をふまえたリアルな経験談を聞くことができる会	

2. 「響きあうアジア2019」実施詳細

2-2. 海外の各イベント

都市	事業名	日程	ジャンル	概要	当該事業に関連する 国際交流基金アジアセンターのこれまでの事業
ジャカルタ	シンポジウム 「日本語パートナーズがつなぐ、 ASEANと日本の絆」	5月下旬	日本語 教育	年間150名規模と最大の“日本語パートナーズ”派遣先国であるインドネシアで、同事業の成果を共有するシンポジウム	“日本語パートナーズ”は、ASEAN諸国を中心とするアジアの中学・高校などへ派遣され、日本語教師や生徒のパートナーとして、日本語の授業のアシスタントを務めたり、日本文化の紹介を行ったりしています。同時に“日本語パートナーズ”自身も現地の言語や文化について学び、SNS等を通じて発信します。アジアセンターは、「生きた日本語」や「日本文化」を伝え、「アジアの架け橋」となる“日本語パートナーズ”を、2020年度までに3,000人以上派遣する予定です。
ジャカルタ	展示 「命を守るアジアの 防災デザイン」	5月下旬	社会課題と アート	日本とアジアの災害多発国において、防災の知識や技を「わかりやすいデザイン」を通じて集め、国境を越えて交流するプロジェクト。クリエイティブな発想を通じて学びあった成果を展示	2013年に神戸で開催した日・東南アジアの防災の取り組みを展示する「Earth Manual Project」を国際交流基金として支援。アジアセンター発足後の2014年～2016年には、アジア各国の巡回先で現地の防災・減災事例を展示に追加し、タイ、フィリピンにて巡回展を開催、2018年秋にはアジアの取り組みを米国（ニューヨーク）へも巡回しました。
ハノイ	日ASEAN 特別音楽コンサート	7月下旬	音楽	日ベトナム特別大使で、日・ASEAN特別大使でもある杉良太郎氏のプロデュースにて実施される、日本とベトナムを含むASEAN主要国の代表歌手による特別コンサート	2013年に開催された第1回に続き、昨年10月に日・ASEAN友好協力45周年記念事業として開催された「第2回日・ASEAN音楽祭」をアジアセンターが支援。今回は、ASEAN-JAPAN Day関連企画として実施する。
ハノイ	サッカー・東南アジア選抜チーム 「ASIAN ELEVEN」 国際親善試合 「J-ASEAN Cup in Vietnam」(仮称)	7月下旬	スポーツ	ASEAN各国及び日本によるU18男子選抜チーム「ASIAN ELEVEN」を結成。特別試合をベトナムのU-18代表選抜を相手に行う。日本サッカー協会及びベトナムサッカー連盟との共催。ASEAN-JAPAN Day関連企画として、実施	アジアセンターは、言語や文化を超えて交流できるサッカーというスポーツを通じた国際交流事業を行っています。ASEAN各国の選手に対してはアジアトップレベルの指導を受ける機会、リーグコーチに対しては異文化の下でリーダーシップを学ぶ機会づくりをしています。
ハノイ	日ASEAN映画特集上映	7月下旬	映画	ASEAN-JAPAN Day関連企画として、日本とASEANに関連した映画を特別上映する。ゲストによるトークイベントも開催予定。	2014年に東京国際映画祭の一部門として創設された「国際交流基金アジアセンターpresents CROSSCUT ASIA」では、国、監督、テーマなど様々な切り口で、アジアの現在（いま）を鋭く切り取った映画の特集上映を行っています。
バンコク	「DANCE DANCE ASIA」 (ダンス・ダンス・アジア)	秋	ダンス	日本と東南アジア各国をストリートダンスでつなぐ、共同制作プロジェクト。多彩な表現力とテクニックを持つアジアの演出・振付家、ダンサー、クリエイターたちが共に創り上げたパフォーマンスを披露し、ストリートダンスの更なる可能性を提示	2014年にスタートしたDANCE DANCE ASIAは、これまでに東京および東南アジア8カ国で公演やワークショップを実施。アジア域内の演出・振付家、ダンサーの交流を促進し、新たな文化の創造を目指すプロジェクトです。

2-3. 主な参画者のプロフィール



小林研一郎 指揮者「響きあうアジア2019ガラコンサート」指揮

東京藝術大学作曲科および指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクールで鮮烈な優勝を飾った。2002年「プラハの春」では音楽祭オープニング・コンサートに東洋人初の指揮者としてチェコフィルと登場した。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、星付中十字勲章を授与。国内では文化庁長官表彰、旭日中綬章を受けている。現在、日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団特別客演指揮者、九州交響楽団の名誉客演指揮者等を務めるほか、長野県芸術監督団音楽監督、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、東京文化会館音楽監督の要職にある。



アピチャップポン・ウィーラセタクン 映画監督／美術家「フィーバールーム」

アーティスト／映画作家。「記憶」を扱う彼の作品は、個人レベルのポリティクスと社会問題を繊細に反映している。タイの映画産業には属さず、タイ内外で実験的でハイブリッドな物語映画を活発に製作。アート・プロジェクトと劇場映画で広く評価を高め、数々のフェスティバルで受賞。カンヌ国際映画祭パルム・ドールの他、オランダのプリンス・クラウス・アワードを受賞している。タイのチェンマイを拠点とする。



岡田利規 演劇作家／小説家「プラクター：憑依のポートレート」脚本・演出

演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰。1973年横浜生まれ、熊本在住。従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。2005年『三月の5日間』にて第49回岸田國士戯曲賞、07年には、小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』にて第2回大江健三郎賞。15年、東京都現代美術館での企画展の一部展示会場のキュレーションや、16年さいたまトリエンナーレでの新作展示など、美術展覧会へも活動の幅を広げ、「映像演劇」という新たな手法による作品制作に取り組んでいる。2016年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピールのレパートリー作品の演出を3シーズンにわたって務める。



ガリン・ヌグロホ 映画監督「サタン・ジャワ」監督

1961年インドネシア、ジョグジャカルタ生まれ。90年代インドネシア映画新世代のパイオニアとしてその名が知られている。監督作はカンヌ、ヴェネチア、ベルリンをはじめとする数多くの映画祭で上映され、多数の映画賞に輝いた。映画評論家、ドキュメンタリー監督として映画業界に入り、インドネシアの社会問題、文化、政治をテーマに選んできた。映画以外にも演劇や美術インスタレーションも手掛けるほか、2005年にはジョグジャNETPACアジア映画祭を創設した。『サタンジャワ』は16年以降世界巡回上映を行なっている。最新作“A Memories of My Body”は今年のヴェネチア映画祭でプレミア上映された。



古賀琢磨 サッカー監督「ASIAN ELEVEN」代表監督

1969年生まれ。静岡県出身。中学校時代は、U-16日本代表にも選ばれた。高校時代は静岡県立清水東高校でプレーし、順天堂大学に進学。卒業後、当時JFLのヤマハ発動機サッカー部（現ジュビロ磐田）に所属し、15試合出場で2得点。その後、1993年～1999年にジュビロ磐田、2000年～2002年に清水エスパルス、2003年にセレッソ大阪で選手として活躍。J1リーグ戦、通算233試合出場で4得点を記録した。引退後、指導者として桃山学院大学サッカー部コーチ、セレッソ大阪U-15監督、セレッソ大阪西U-15監督などに就任。2011年よりシンガポール、東ティモール、上海などでアンダー世代の監督を歴任。現在、ミャンマーアカデミー（マンダレー）監督を務める。

Little Glee Monster（リトル・グリー・モンスター） 歌手／アーティスト 【ASIAN ELEVENテーマソング提供】



2013年に結成された女性ヴォーカル・グループ。グループとしてのコンセプトは“歌声だけで人々の心をひとつにする”。洋楽・邦楽の別を問わず、様々なジャンルの楽曲を独自の解釈で、時には芝居やダンス等も交えつつ、ライブ活動を展開。2014年10月29日「放課後ハイファイブ」でメジャーデビュー。2017年には世界的アーティストのEarth, Wind & FireやAriana Grandeのジャパン公演でサポートアクトを務め、NHK紅白歌合戦への初出場を果たした。2018年には横浜アリーナ、大阪城ホールにて初のアリーナツアーを開催し、この年のNHK紅白歌合戦にも出場。3rdアルバム「juice」がゴールドディスクを、アリーナツアーの映像作品がオリコンで二冠を獲得した。

3. 国際交流基金アジアセンターについて

3-1. 設立背景

国際交流基金アジアセンターは、2013年12月、日・ASEAN友好協力40周年を記念する日・ASEAN特別首脳会議において安倍総理が発表したアジア文化交流政策「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」を実行する組織として、2014年4月に国際交流基金内に新設されました。

日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流などさまざまな分野での交流や協働を通じて、アジアにともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むことを目指しています。

3-2. 沿革

2014年 4月 : 国際交流基金アジアセンター発足

9月 : “日本語パートナーズ”派遣事業開始

10月 : 東京国際映画祭に「CROSSCUT ASIA」部門を新設、またアジアの新鋭監督の登竜門である「アジアの未来」部門に「国際交流基金アジアセンター特別賞」を創設

11月 : 日本サッカー協会（JFA）、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）との連携・協力のための覚書を締結

2015年 1月 : フィリピン・マニラにて「ダンス・ダンス・アジア」東南アジアツアーがスタート

2月 : TPAM（国際舞台芸術ミーティング in 横浜）に主催者として参画、アジア・フォーカスが開始

4月 : 東京都現代美術館にて「他人の時間 | Time of others」展開催

8月 : 「三陸国際芸術祭」との連携開始

インドネシア・ジャカルタにて、「第1回日ASEANメディア・フォーラム」を開催

2016年 8月 : 「ふれあいの場」をヤンゴン（ミャンマー）、チェンマイ（タイ）、ホーチミン（ベトナム）の3都市に開設

9月 : 国際交流基金アジアセンター事業諮問委員会ASEAN側委員がアジアセンターの取組を評価する共同声明を発表

10月 : アジア・オムニバス映画製作シリーズ第一弾「アジア三面鏡2016：リフレクションズ」公開

11月 : 東南アジア・ムスリム青年との対話（TAMU/Talk with Muslims series）開始

2017年 6月 : インドネシア・ジャカルタにて、「第1回アジア・ユーロポリシーフォーラム」開催。インドネシア副大統領、同外相、前ASEAN事務総長らが基調講演

7月 : 国内で過去最大規模の東南アジア現代美術展「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」を開催。動員数35万人は、2017年開催の展覧会で全国第7位

11月 : ダイバーシティをはぐくむ「EYESプロジェクト」を開始

2018年 1月 : 日本語パートナーズ派遣1,000名を突破

2月 : ブルネイ柔道連盟設立

8月 : 岡田利規×ウティット・ヘームムーン「プラターナー：憑依のポートレート」バンコクにて初公演

10月 : アジア・オムニバス映画製作シリーズ第2弾「アジア三面鏡2018：Journey」公開

東京国立近代美術館にて「アジアにめざめたら：アートが変わる、世界が変わる1960-1990年代」を開催

2019年 1月 : ミャンマー国立交響楽団 with Japanコンサート（国際交流基金ヤンゴン日本文化センター開設記念、アウン・サン・スーチー国家最高顧問も鑑賞）

サッカー交流事業「ASIAN ELEVEN」テーマソング Little Glee Monster「I BELIEVE」リリース

4. 国際交流基金アジアセンター事業実績データ

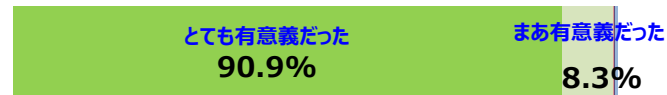
(1) “日本語パートナーズ”派遣事業：事業規模は順調に拡大。受け入れ校からも極めて高い評価

- アジアセンターは2014年度から2017年度までで“日本語パートナーズ”を12カ国に計1,225名派遣。初年度100名だった派遣数は2017年度にはおよそ6倍まで増加しました。国別の派遣人数は、インドネシアが最も多く443名、続いてタイ（294名）、ベトナム（139名）となっています。
- アンケート調査では、毎年度98%以上の受け入れ校がパートナーズの活動を「有意義」と回答し、本事業がアジア各国の日本語教育に貢献していることが分かる結果となりました。

“日本語パートナーズ”派遣の成果：各国の日本語教育の発展や対日理解促進に大きな貢献

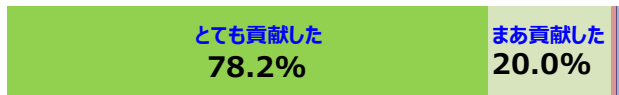
1. 活動評価

Q. 日本語パートナーズの活動は有意義でしたか。



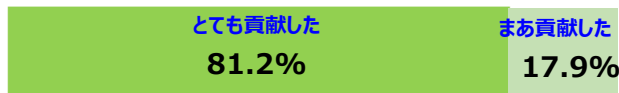
- ・ **99.2%**の派遣先機関が高評価

Q. 生徒の学習意欲向上に貢献しましたか。



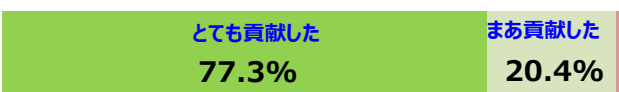
- ・ **98.2%**の教師が高評価

Q. 授業のアシスタントとして貢献しましたか。



- ・ **99.1%**の教師が高評価

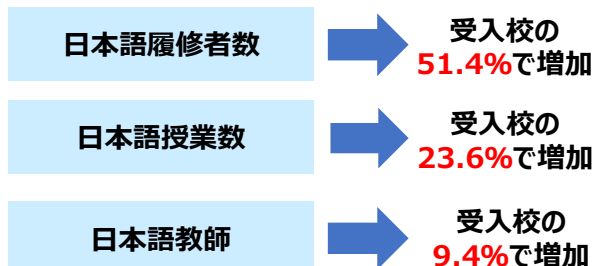
Q. 生徒の日本理解に貢献しましたか。



- ・ **97.7%**の教師が高評価

2. 日本語パートナーズ派遣の成果

- 日本語パートナーズ帰国後の受入校に対する調査結果（長期派遣456機関中409機関が回答）



※2017年度中に帰国した日本語パートナーズの受入校を対象に調査

現地の声

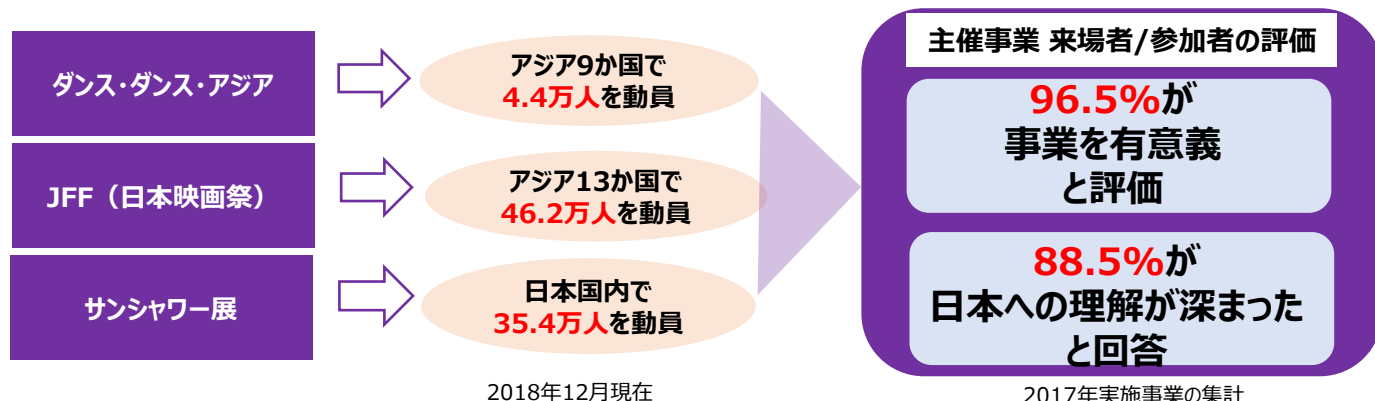
- ・「学生が日本人と話す環境が整備された」（ミャンマー教育大臣）
- ・「生徒に日本語を話す自信を与えてくれた」（タイの日本語教師）
- ・「日本語の授業がとても楽しい」（フィリピンほか各国生徒）

日本語パートナーズは、生徒やイベント参加者など、約100万人に裨益しています

(2) 文化・知的交流事業：参加者および来場者数は2014年度から2017年度までの4年間で合計360万名以上

- “日本語パートナーズ”派遣事業の他にも、アジアセンターは様々な芸術分野やスポーツ、学問、市民交流などをテーマにした事業を2014年度から2017年度までの4年間で合計1,525件実施しました。うち同センターが主催した事業は951件、助成した事業は574件となっています。
- これらの文化・知的交流事業の裨益者数（参加者および来場者数）は、2014年度から2017年度までの4年間で合計360万名以上にも上ります。
- 国際交流基金では、双方向の文化交流の活動を実施しています。相互に刺激し合い、双方の理解を深めた上で、新たな文化を醸成することを目指しています。

“文化の双方向交流事業”の成果：多数の人の日本理解促進に大きく貢献



5. 国際交流基金アジアセンター 組織データ

名称 : 独立行政法人 国際交流基金アジアセンター
 設立 : 2014年4月
 職員等 : 国内 67名、海外 37名
 予算規模 : 2014年度～2020年度の7か年度で総額200億円規模
 所在地 : 東京都新宿区四谷4-16-3
 TEL 03-5369-6025 FAX 03-5369-6141 EMAIL acinfo@jpf.go.jp

組織図：

